

領 域	専門分野(成人看護学)	開講時期	1年前期～後期
科 目 名	成人看護学概論	単 位 数 (時間数)	1単位(30時間)
講 師 <small>(所属・職位等・実務経験)</small>	渡邊 真弓(別府医療センター附属大分中央看護学校・教育主事・看護師31年)		
<p><科目目標> 成人の概念、成人各期の特徴、成人の健康の意義・動向及び健康問題や危機を理解し、成人期にある対象の看護の意義、目的を理解する。また、成人期の保健活動と法的根拠を理解する。</p> <p><内容></p>			
回	授業内容	授業方法	
1	1. 成人の概念 1) 大人になること、大人であること 2) 発達段階・発達課題 (青年期・壮年期・中年期・向老期) 【演習課題Ⅰ】 青年期の特徴(身体・心理・社会的側面)	講義	
2	2. 成人各期の特徴 1) 青年期にある人の身体的・心理的・社会的特徴 【演習課題Ⅱ】 壮年期・中年期・向老期の特徴(身体・心理・社会的側面) ～対象者へのインタビューを通して～	講義 演習	
3・4	2) 壮年期・中年期・向老期にある人の身体的・心理的・社会的特徴	演習	
5・6	3. 成人の生活 1) 生活の多様化 2) 家族形態と機能 3) 仕事と成人 4) 地域社会での役割	講義 演習	
7	4. 成人期にある人の健康状態の動向と施策 1) 成人を取り巻く環境と生活の状況 2) 成人の健康の状況 3) 成人に対する保健医療福祉対策	講義	
8・9	5. 成人期にある人の生活と健康問題 1) 生活習慣とライフスタイル (1) 生活習慣に関連する健康障害 (2) 職業に関連する健康障害 (3) 生活ストレスに関連する健康障害 (4) 引きこもり、うつ、ネット依存症などの健康問題	講義・演習	
10	6. 成人への看護アプローチの基本 1) 大人の学習と成人教育(アンドラゴジー) 2) チームアプローチ (1) 種類 (2) 目的 (3) 多職種連携と看護師の役割 3) 意思決定支援 (1) 意思決定における看護師の役割 (2) 意思決定過程に関与する因子(3)アドバンスケアプランニング 4) 家族支援 (1) 家族機能と家族アセスメント (2) 家族の対処・解決能力促進への支援	講義	

回	授業内容	授業方法
11～13	5. 成人看護学に活用できる理論・看護アプローチ 1) ストレス・コーピング 2) 危機理論 3) 障害の受容・ボディイメージ 4) 自己効力・アドヒアランス 5) エンパワメントエデュケーション 6) セルフケア・症状マネジメント 7) 行動変容ステージモデル	講義
14・15	6. 行動変容を促進する看護アプローチ 【演習課題3】 *11回目終了後 成人期にある人の行動変容を促進する看護アプローチ グループ共有・全体発表	講義 演習
<p>授業の進め方：講義およびグループワーク（課題学習）</p> <p>心理学で学習した発達課題（エリクソン、ハビガースト）を活用する。</p> <p>成人期の健康や疾病構造は、その生活行動と関連させて理解する。</p> <p>健康教育・患者教育を行うために学習者の特徴を理解する。また、基礎看護技術Ⅲで学習した指導技術や理論を活用し、対象に応じて理論をどのように適応させていくのかが理解できるように進めていく。</p> <p>成人期にある人の心身の特徴や生活の特徴から生じやすい健康障害を理解する。</p>		
<p>テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[1]成人看護学総論(医学書院) 2. 国民衛生の動向 2022/2023年版(厚生統計協会) 3. 看護診断のためのよくわかる中範囲理論第3版(学研) 		
<p>評価方法</p> <p>筆記試験、課題レポート、授業(講義・演習)参加状況より総合的に評価する。</p>		

領 域	専門分野Ⅱ(成人看護学)	開講時期	2年前期
科 目 名 (单元名)	成人看護方法論Ⅰ	単 位 数 (時間数)	1単位(30時間)
講 師 (所属・職位等・実務経験)	①大道 真理 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師17年) ②伊藤 温子 (別府医療センター・看護師6年) ③大山 泰幸 (別府医療センター・看護師15年) ④大矢 健介 (別府医療センター・診療看護師・看護師17年) ⑤三ツ股巧貴 (別府医療センター・看護師5年) ⑥埋ノ江知佳 (別府医療センター・看護師5年)		
<科目目標> 周手術期や救命救急治療を必要とする急激な身体侵襲を受ける成人の特徴と、健康危機状況にある成人の看護を理解する。			
回	授業内容	授業方法	担当講師
1	1. 予定して手術を受ける患者の術前看護 1) 手術の意思決定への援助 (1) 真実の伝達 (2) セルフケアの促進 (3) コーピングの強化 2) 術前の具体的援助 (1) 術前オリエンテーション (2) 本人・家族の不安のアセスメントと援助 (3) 社会的・経済状況の把握 (4) 全身状態を整える (5) 術前指導 (6) 術前日の援助 (7) 術当日の援助 3) 術後合併症発生のリスクアセスメント	講義	②
2・3	2. 手術中の看護 1) 入室前の看護 2) 術中の安全管理 3) 入室時の看護 4) 麻酔導入時の看護 (1) 気管内挿管の手順と看護 (2) 脊椎麻酔・硬膜外麻酔の介助 (3) 手術体位とその影響 (4) 器械出し看護師の役割 (5) 外回り看護師の役割 (6) 麻酔方法による影響と援助 (7) 手術看護記録 5) 麻酔覚醒時の介助 6) 術後全身機能に対する援助 7) 病棟への引き継ぎ	講義	③
4	3. 術後看護 1) 術後の疼痛管理 2) 水分出納管理 3) ドレーン管理 4) 術後合併症の予防 5) 術後ベッド 6) 術後の機能障害と生活制限への援助	講義	②
5・6	4. 集中治療を受ける患者の看護 1) 集中治療を受ける患者の理解 (1) 治療環境 ①集中治療室(ICU)とは (2) 身体的特徴 (3) 心理・社会的特徴 2) 集中治療における看護の役割 3) 急変時の看護	講義	④

回	授業内容	授業方法	担当講師
7～10	5. 手術を受ける患者の看護過程 事例：50歳代後半 男性 胃がん 1) 事例紹介 2) アセスメント 3) 介入計画立案	講義	①
11～13	6. 急性心筋梗塞患者の看護 1) 急性心筋梗塞の病態・成り行きと治療 2) 虚血性心疾患患者の病期に応じた援助 (1) 急性期における看護 (2) 検査・治療の援助や合併症や副作用の看護 (3) 回復期における看護	講義	⑤
14・15	7. 脳神経外科疾患患者の看護 1) 病態・症状 2) 治療 3) 検査時の看護 4) 手術前・後の看護 5) 術後の合併症と予防 6) 回復期の看護 7) 社会復帰に向けての生活指導	講義	⑥

授業の進め方

講義で事例を示しながら、講義を進める。

テキスト

1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [3] 循環器(医学書院)：⑤
2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [5] 消化器(医学書院)：①②
3. 看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [7] 脳・神経(医学書院)：⑥
4. 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論(医学書院)：①②③④
5. 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論(医学書院)：①②
6. 看護診断ハンドブック 第11版(医学書院)：①

評価方法

筆記試験 レポート

領 域	専門分野Ⅱ(成人看護学)	開講時期	2年前期
科 目 名 (单元名)	成人看護方法論Ⅱ	単 位 数 (時間数)	1 単位 (30 時間)
講 師 (所属・職位等・実務経験)	①前川真之介(別府医療センター・看護師 8年) ②板井省吾 (別府医療センター・看護師 8年) ③田村委子 (別府医療センター・診療看護師・看護師 17年) ④田尻朝恵 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師 14年) ⑤安達都香咲(別府医療センター・看護師 6年)		
<科目目標> 慢性的な健康障害から生活の変化を余儀なくされ、疾病・生活のコントロールを必要とする成人の看護を理解する。			
<内容>			
回	授業内容	授業方法	担当講師
1・2	1.慢性心不全患者の看護 1)ポンプ機能障害(心拍出量低下)のアセスメント 2)症状とその看護 3)検査を受ける患者の看護 4)セルフケア・自己管理支援 5)社会的支援の獲得への援助	講義	①
3・4	2.不整脈のある患者の看護 1)刺激伝導障害のアセスメント 2)症状とその看護 3)検査を受ける患者の看護 4)治療を受ける患者の看護 (1)ペースメーカー装着 (2)植込み型徐細動器 5)セルフケア・自己管理支援 6)社会的支援の獲得への援助	講義	①
5～8	3.糖尿病患者の看護 1)栄養代謝機能障害・血糖調節機能障害のアセスメント 2)症状とその看護 3)検査を受ける患者の看護 4)治療を受ける患者の看護 5)セルフケア・自己管理支援 6)社会的支援の獲得への援助	講義 演習	②
9	4.甲状腺機能障害のある患者の看護 1)甲状腺機能障害のアセスメント 2)原因と程度 3)症状とその看護 4)検査を受ける患者の看護 5)治療を受ける患者の看護 6)セルフケア・自己管理支援 7)社会的支援の獲得への援助	講義	③

回	授業内容	授業方法	担当講師
10・11	5. 慢性閉塞性肺疾患患者の看護 1)呼吸機能障害機能障害のアセスメント 2)症状とその看護 3)検査を受ける患者の看護 4)治療を受ける患者の看護 5)社会的支援の獲得への援助	講義	④
12～15	6. 肝機能障害のある患者の看護 1)栄養代謝機能障害のアセスメント 2)症状とその看護 3)検査を受ける患者の看護 4)治療を受ける患者の看護 5)セルフケア・自己管理支援 6)社会的支援の獲得への援助 7)肝硬変の病期に応じた援助 8)肝がんの病期に応じた援助	講義	⑤
授業の進め方 講義でDVDなど視聴覚教材を用いながら学習を進める。 血糖測定では、校内演習（器具・装具など実際に見せながら演習を行う）を行い、学習を進める。			
テキスト 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[3]循環器(医学書院):① 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ(医学書院):② 3. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[6]内分泌・代謝(医学書院):②③ 4. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[2]呼吸器(医学書院):④ 5. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5]消化器(医学書院):⑤			
評価方法 筆記試験 授業への参加状況			

領域	専門分野Ⅱ(成人看護学)	開講時期	2年前期
科目名 (单元名)	成人看護方法論Ⅲ	単位数 (時間数)	1単位(30時間)
講師 <small>(所属・職位等・実務経験)</small>	①衛藤 可奈 (別府医療センター・看護師6年) ②松丸 陽子 (別府医療センター・看護師30年) ③津下 智子 (別府医療センター・乳がん看護認定看護師・看護師18年) ④石本 詩織 (別府医療センター・看護師8年) ⑤土居 由紀 (別府医療センター・看護師15年) ⑥杉安 久美 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師19年)		
<科目目標> 治癒困難・身体機能障害により、新しい生活の再獲得を必要とする成人の看護を理解する。			
<内容>			
回	授業内容	授業方法	担当講師
1・2	1. 関節リウマチ患者の看護 1) 身体防御機能障がい、運動機能障がいのアセスメント 2) 症状とその看護 3) 検査を受ける患者の看護 4) 治療を受ける患者の看護 5) 障がいに対する受容と適応への援助 6) 社会参加への援助	講義	①
3・4	2. 子宮がん患者の看護 1) 性・生殖機能障害のアセスメント 2) 症状とその看護 3) 検査を受ける患者の看護 4) 治療を受ける患者の看護 5) 障がいに対する受容と適応への援助 6) 社会参加への援助	講義	②
5	3. 乳がん患者の看護 1) 乳腺機能障害のアセスメント 2) 症状とその看護 3) 検査を受ける患者の看護 4) 治療を受ける患者の看護 5) 障がいに対する受容と適応への援助 6) 社会参加への援助	講義	③
6	4. 下肢動脈閉塞症患者の看護 1) 血管・リンパ管障害のアセスメント 2) 症状とその看護 3) 検査を受ける患者の看護 4) 治療を受ける患者の看護 5) 障がいに対する受容と適応への援助 6) 社会参加への援助	講義	④
7	5. 喉頭がん患者の看護 1) 咀嚼・嚥下機能障害のアセスメント 2) 症状とその看護 3) 検査を受ける患者の看護 4) 治療を受ける患者の看護 5) 障がいに対する受容と適応への援助 6) 社会参加への援助	講義	⑤

回	授業内容	授業方法	担当講師
8・9	6. 大腸がん患者の看護 1) 消化・吸収機能障害のある患者の看護 2) 症状とその看護 3) 検査を受ける患者の看護 4) 治療を受ける患者の看護 5) 障がいに対する受容と適応への援助 6) 社会参加への援助	講義	⑥
10～15	7. 脳梗塞患者の看護過程の展開 1) 患者のアセスメント 2) 関連図 3) 看護診断 4) 介入計画 5) 評価	講義・演習	⑥
授業の進め方 講義でDVDなど視聴覚教材を用いながら学習を進める。			
テキスト 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [3] 循環器(医学書院) : ④ 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [5] 消化器(医学書院) : ⑥ 3. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [7] 脳・神経(医学書院) : ⑥ 4. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [9] 女性生殖器(医学書院) : ②③ 5. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [11] アレルギー・膠原病・感染症(医学書院) : ① 6. 病気がみえる vol.9 婦人科・乳腺外科 第3版 : ② 7. 看護診断ハンドブック(医学書院) : ⑥ 8. 看護診断のためのよくわかる中範囲理論(学研) : ⑥ 9. ザ・ロイ適応看護モデル 第2版(医学書院) : ⑥			
評価方法 筆記試験 レポート 授業への参加状況			

領 域	専門分野Ⅱ(成人看護学)	開講時期	2年後期
科 目 名	成人看護方法論Ⅳ	単 位 数 (時間数)	1単位(30時間)
講 師	①江上 雅代 (別府医療センター・がん看護専門看護師・看護師29年) ②津下 智子 (別府医療センター・乳がん看護認定看護師・看護師18年) ③杉安 久美 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師18年)		

<科目目標>

がんや難病など治療・治癒困難な健康障害によって終末期にある成人の看護を理解する。

<内容>

回	授業内容	授業方法	担当講師
1・2	1. 終末期の意味と現状・課題 1) 終末期医療の現状と課題 2) 緩和ケアと終末期ケアの概念 3) 緩和ケアチームにおける役割 2. 緩和ケアと終末期ケアを行うための対象把握 3. 終末期にある人への看護	講義 演習(GW)	①
3～5	4. 苦痛の緩和への方法 1) 症状コントロール(メカニズムとそのマネジメント) (1) 痛み (2) 浮腫 (3) 全身倦怠感 (4) 食欲不振	講義 演習(GW)	①
6～12	5. 全人的苦痛とスピリチュアルケア(看護過程) 1) 膵臓がん患者の看護 (1) 健康状態に応じた看護目標と看護のポイント (2) 診断・治療・検査に伴う看護の実際 (3) 膵臓がんの終末期患者の看護過程 ※事例：50歳前半 女性 膵臓がん ①アセスメント ②看護診断 ③計画 ④実施 ⑤評価 2) 特徴的な看護技術	講義 演習(GW)	③
13～15	6. 家族の定義と家族ケアのあり方 7. 終末期にある人の家族、および看取り後の家族ケア 1) 家族ケア・遺族ケアの基本的な考え方 2) 家族アセスメントの方法とそのプロセス 3) 家族ケアの方法 4) 家族のストレス；グリーフケア 5) 臨死期における看護	講義	②

授業の進め方

講義でグループワークを取り入れながら学習を進める。“悪い知らせ”の知らせ方と支援から看護師の対応を考えることができるようにする。事例展開した介入計画にそって、特徴的な看護技術として学んだ、苦痛の軽減を目的とした浮腫・倦怠感の代替・補完療法として指圧・マッサージを校内演習で行う。中範囲理論の危機理論・家族理論などを用いて家族看護を理解できるように講義を行う。治療困難な患者を受け持つ家族が死を意識せざるをえない状況になった時から患者と死別して悲観から回復するまでを理解できるように講義を行う。死亡から病院を出られるまでの家族の状況をイメージできるように講義を行う。

テキスト

1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [1] 成人看護学総論(医学書院) : ①②③
2. 系統看護学講座別巻 緩和ケア(医学書院) : ①②③
3. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [5] 消化器(医学書院) : ③
4. 看護診断ハンドブック(医学書院) : ③
5. ザ・ロイ適応看護モデル 第2版(医学書院) : ③
6. 看護診断のためのよくわかる中範囲理論 第2版(学研) : ③

評価方法

筆記試験 レポート 授業態度・参加状況

領 域	専門分野Ⅱ(成人看護学)	開講時期	2年後期																
科目名 (単元名)	成人看護方法論Ⅴ	単位数 (時間数)	1単位(15時間)																
講 師 <small>(所属・職位等・実務経験)</small>	①田尻 朝恵 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師14年) ②森口 奏相 (別府医療センター・救急看護認定看護師・看護師15年)																		
<p><科目目標> 成人看護学概論・成人看護方法論で学んだ知識と基礎看護学で学んだ知識・技術を統合し、健康障がいをもつ成人に応じた看護を理解する。</p> <p><内容></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> <th>担当講師</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1・2</td> <td>1. チューブ類・ドレーン管理を行っている患者の看護 2. 創傷処置の実際 3. ストーマケア</td> <td>講義 演習</td> <td>①</td> </tr> <tr> <td>3～5</td> <td>4. ヘルスアセスメントの実際(視診・聴診・触診) 1)呼吸器系と全身状態の観察 2)循環器系と全身状態の観察 3)腹部の観察 4)意識状態の評価</td> <td>講義 演習</td> <td>②</td> </tr> <tr> <td>6～8</td> <td>5. 急激な身体侵襲をきたした患者の看護 1)心電図モニターの装着 2)吸引:気管内(演習) 3)輸液ポンプの装着時の看護 4)人工呼吸器装着時の看護</td> <td>講義 演習</td> <td>②</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	担当講師	1・2	1. チューブ類・ドレーン管理を行っている患者の看護 2. 創傷処置の実際 3. ストーマケア	講義 演習	①	3～5	4. ヘルスアセスメントの実際(視診・聴診・触診) 1)呼吸器系と全身状態の観察 2)循環器系と全身状態の観察 3)腹部の観察 4)意識状態の評価	講義 演習	②	6～8	5. 急激な身体侵襲をきたした患者の看護 1)心電図モニターの装着 2)吸引:気管内(演習) 3)輸液ポンプの装着時の看護 4)人工呼吸器装着時の看護	講義 演習	②
回	授業内容	授業方法	担当講師																
1・2	1. チューブ類・ドレーン管理を行っている患者の看護 2. 創傷処置の実際 3. ストーマケア	講義 演習	①																
3～5	4. ヘルスアセスメントの実際(視診・聴診・触診) 1)呼吸器系と全身状態の観察 2)循環器系と全身状態の観察 3)腹部の観察 4)意識状態の評価	講義 演習	②																
6～8	5. 急激な身体侵襲をきたした患者の看護 1)心電図モニターの装着 2)吸引:気管内(演習) 3)輸液ポンプの装着時の看護 4)人工呼吸器装着時の看護	講義 演習	②																
<p>授業の進め方</p> <p>講義開港前に基礎看護学のフィジカルアセスメント、吸引、輸液管理(輸液ポンプの管理で学習した知識・技術をふまえ、学習する。</p> <p>それぞれのチューブの仕組みから管理の違い、絆創膏固定など日々のスキンケアについてわかるように演習を行う。本単元では、各種ドレーンの目的や管理方法、ストーマケアの方法、創傷処置の方法について、実演を通して学ぶ。</p> <p>事例を用いて患者の状態に応じた観察の方法や呼吸音、脈拍、心音、心電図などを理解させる。また、フィジカルアセスメントモデルなど実際に活用し演習を行う。</p>																			
<p>テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論(医学書院):①② 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ(医学書院):① 3. 写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメント(インターメディカ):② 																			
<p>評価方法</p> <p>レポート 授業態度、出席状況</p>																			